令和４年度　国語科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

- 国語科の学習において大事なことを選び取ってメモをする機会を意図的に取り入れたり、他教科等の時間にも活用する機会を設定したりした。話の意図を考えながら内容を聞き取る力がついてきている。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」を身に付けるため、中・高学年は、辞書をいつも手元に置くようにした。言葉の理解を深めることができた。
- 段落のまとまりを考えながら読む力を付けるため、年間を通して物語だけではなく、説明的文章にも触れる機会を設定してきた。すすんで読書をする児童が増え、読んで理解する力がついてきている。

（２）　課題

- 気付いたことや感想などを表現する機会を多く設定するなど、自信をもつことができるようにすることで、間違いを恐れずに自分の考えをもって表現することができる力を育てることが引き続きの課題である。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

	令和４年度結果	令和３年度結果	令和２年度結果
第４学年	目標値に対する達成率は、約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。前年の４年生に比べて達成率が低くなっている。		
第５学年	目標値に対する達成率は、約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約５分減少した。	目標値に対する達成率は、約８割であり、約２割の児童が目標を達成していない。	
第６学年	目標値に対する達成率は、約８割５分であり、約１割５分の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約１割増加した。	目標値に対する達成率は、約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約５分減少した。	目標値に対する達成率は、約８割であり、約２割の児童が目標を達成していない。

（2）　分析（観点別）

①　中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値を 4.7 ポイント上回っている。知識・技能の定着が認められる。しかし、領域別にみると「漢字を書く」に課題があり、様々な言葉に触れる機会が少ないことが理由として考えられる。	・目標値に対しては、4.8ポイント上回っている。しかし、領域別にみると「書くこと」が比較的ポイントが低く、目的を意識して書く機会が少ないことによるものと考えられる。	・目標値を 1.4 ポイント下回っている。「書くこと」の領域での無回答が見られたことに起因しており、より言葉に親しみ自信をもって学んだ言葉を使うことが少ないことによるものと考えられる。

②　高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・５年生は 6.5 ポイント、６年生は14.1ポイント、目標値を上回っている。知識・技能の定着が認められる。学年間のポイントの差は、「漢字を書く」領域の差に起因しており、より漢字や多くの言葉に親しむことが少ないことが理由として考えられる。	・５年生は 6.0 ポイント、６年生は 8.5 ポイント、目標値を上回っている。しかし、領域別にみると「書くこと」のポイントが比較的低く、自分の意見を明確にして書く機会が少ないことが理由として考えられる。	・５年生は 0.9 ポイント、６年生は10.6ポイント、目標値を上回っている。学年間のポイントの差は、５年生の「書くこと」の領域に無回答が比較的多く見られたことに起因しており、自分の意見など、より自信をもって学んだ言葉を使うことが少ないことによるものと考えられる。

３　授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各学年の配当漢字については、ドリル、単元ごとの小テストを活用し、繰り返し練習させて定着を図ることができるようにする。	・思ったことを話したり書いたりする機会を多く設けることで、間違いを恐れずに、自分の考えをもち、自ら表現することができる力を育てる。	・内容や感想など、自分の考えや思いを伝え合う機会をもち、伝え合う楽しさを感じ、すすんで表現することができるようにする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各学年の配当漢字については、大田区漢字検定に向けて、繰り返し過去問題に取り組ませるなどで、知識の定着を図ることができるようにする。 ・継続して国語辞典、漢字辞典を日常的に活用させることで、語彙を豊かにすることができるようにする。	・考えを明確にして、指定された長さで文章を書く活動を取り入れることで、目的を意識して書くことができるようにする。 ・他教科でも学習感想や考察を書く場面を意図的に設けることで、表現する力を高めることができるようにする。	・文章に対する感想や意見を伝え合う機会を設定し、自分の考えが相手に伝わるよさに気付き、意欲的に書くことができるようにする。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各学年の配当漢字については、大田区漢字検定に向けて、繰り返し過去問題に取り組ませることで、充実を図ることができるようにする。 ・継続して国語辞典、漢字辞典を日常的に活用させることで、語彙を豊かにし、語感や言葉の使い方に対する意識を育てることができるようにする。	・要約、共通点への着目、文字数の制限、事例や理由の列挙など様々な書く方法を取り入れ、条件に合わせて文章を書く力、自分の意見を明確にして文章を書く力を伸ばすことができるようにする。 ・他教科でも学習感想や考察を書く場面を意図的に設けることで、表現する力をより確かにすることができるようにする。	・文章全体の構成や展開が明確になっているかなどに着目して感想や意見を伝え合う機会を設定し、自分の考えが相手に伝え合わるよさに気付き、意欲的に書くことができるようにする。

令和４年度　社会科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・それぞれの学習段階において日常的に地図帳を活用するとともに、一昨年度の授業改善推進プランであった校内での都道府県検定を継続して実施することで、国土に関する知識獲得への意欲を引き出すことができた。

・資料の読み取りに関して、どの学年も発達段階に合わせて工夫して資料提示している。中学年はイラストや写真から分かったことを学級で交流し、その集約から学習のまとめを行った。高学年では資料の中から必要な情報を抽出し、事実同士の関連を意識しながらまとめる活動をした。それにより、資料の中から学習課題の解決のための情報を適切に調べる力が定着した。

・表現活動として、新聞記事を基にしたスピーチや、社会的事象に関する課題について児童が議論するなど、学年の実態に応じて様々なものを実践した。これにより、社会的事象と自分とのつながりを意識させ、学習への意欲や、表現力を養うことができた。

（２）　課題

・引き続き、文章資料やグラフや図などの資料から課題解決に向けた情報を抽出するとともに、雨温図などの複合的な資料においても正確に読み取ることができる力を系統的に身に付けることができるような機会を設定することが課題である。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

	令和４年度結果	令和３年度結果	令和２年度結果
第４学年	目標値に対する達成率は約７割５分であり約２割５分の児童が目標を達成していない。前年の第４学年に比べて達成率が低くなっている。		
第５学年	目標値に対する達成率は約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。昨年度に比べて目標を達成した児童の割合は約１割減った。	目標値に対する達成率は約８割５分であり、約１割５分の児童が目標を達成していない。	
第６学年	目標値に対する達成率は約７割であり、約３割の児童が目標を達成していない。昨年度に比べて目標を達成した児童の割合は約５割減った。	目標値に対する達成率は約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。昨年度に比べて目標を達成した児童の割合は、ほとんど変化がない。	目標値に対する達成率は約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。

（2）　分析（観点別）

①　中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 目標値は1.2ポイント上回っているものの、前年の第４学年４年生と比較すると正答率が低い。日常的に資料を活用する機会が少ないことによるものと考えられる。	・ 目標値は５ポイント上回っているものの、前年の４年生と比較すると正答率が低い。資料を基に判断する機会が少ないことによるものと考えられる。	・ 目標値は 5.6 ポイント上回っているものの、前年の４年生と比較すると正答率が低い。身近なことから学習課題を設定する機会が少ないことによるものと考えられる。

②　高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 第５学年は目標値を７ポイント、第６学年は目標値を 3.8 ポイント上回り、前年度比においても同程度の水準を保っているが、第６学年「日本の国土と人々のくらし」は、目標値を下回っている。日常的に地図帳を活用していく機会が少ない児童がいることによるものと考えられる。	・ 第５学年は目標値を 3.2 ポイント、第６学年は目標値を 2.9 ポイント上回っているものの、第６学年生に関しては、前年度と比較すると正答率が低い。資料を基に判断する機会が少ないことによるものと考えられる。	・ 第５学年は目標値を 5.6 ポイント、第６学年は目標値を3.5ポイント上回ると共に、前年度比においても同程度の水準を保っている。が第６学年「安全を守る活動」は、目標値を下回っている。、発言以外の学習活動が少ないことによるものと考えられる。

３　授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 日常的に地図帳を活用することによって、第３学年は地図記号、第４学年は等高線など、情報の読み取りを習慣化できるようにする。 ・ 文章資料だけでなく、グラフや図、絵など様々な資料を用いる機会を増やし、情報を適切に読み取ることができるようにする。	・ 発言や文章、絵や図、ポスター、新聞やリーフレットなど様々な表現活動を行う。新聞やリーフレットで表現活動を行う際には、内容を教科書やその他資料を基に自分で考え、まとめることができるようにする。	・ 児童がイラストや写真資料から気付いたことや分かることを話し合うことで、課題を解決するための学習問題を自分たちで設定し、意欲的に取り組むことができるようにする。 ・ 発言以外にも ICT やノートでの表現活動を重視することにより、自信をもって取り組むことができるようにする。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日常的に地図帳を活用し、第３学年で学習する地図記号と、第４学年で学習する等高線を用いて、第５学年の国土の学習の土地利用の課題解決を行うことにより、資料活用の技能を系統的に身に付けられるようにする。 ・グラフなどから分かる傾向などを基に学習課題を見出し、情報を抽出して、それらを関連付けながらまとめていく活動を行うことで、資料を基に課題解決することができるようにする。	・新聞記事を用いたスピーチ活動や、社会的事象に関する今日的な課題についての議論を取り入れることで、より考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。 ・児童同士が議論を行う際には、調べた内容を振り返ったり、課題を共有したりすることで、既習の知識や生活の中での経験を基に話し合わせるようにする。 ・「いかす」の段階で行う際には、児童が自分の考えを広めたり、深めたりすることできるようにする。	・既習事項や日常の経験から児童が持っている知識に対し、矛盾を感じるような資料を提示し、疑問をもつことができるようにする。また、過去と現在の写真を比較して、変化の要因を考える方法などにより、学習問題を作ることができるようにする。 ・「めあて」と「まとめ」を「問い」と「答え」の形で設定することで、児童が自分事として、調べる目的を明確にもてるようにする。

令和４年度　算数科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・ 身近にある具体物を多く用いたり、それらを使った体験的な活動を取り入れたりした結果、興味、関心をもって授業に取り組む児童が増えた。

・ 学習した図やグラフ、式の変形を用いて自分の考えの根拠を説明する機会を設け、なるべく多くの表現方法で伝えるように指導した結果、ノートに計算の結果だけでなく、その過程を書こうとする児童が増えた。

・ 課題把握、見通し、自力解決、集団検討、まとめ、振り返りといった問題解決の流れを基本として授業を行うことで、児童が見通しをもって学習に取り組み、自ら解決しようとする意欲が高まった。

（２）　課題

・自分の考えを相手に伝える場を授業内で設定し、児童の発言機会を確保したが、話し合いが深まるまでには時間がかかり、十分に検討するまでには至らないこともあった。話し合いの方法や目的意識をもたせることが課題である。

・ 自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために、どのように表現すれば良いのかを考えたり、学習内容に応じて表やグラフなどを活用したりすることができるように指導を行った。しかし、一時的な理解で終えてしまう児童も多く、同じものでも視点を切り替えて考えたり、説明の根拠として活用したりすることに課題が残る。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

	令和４年度結果	令和３年度結果	令和２年度結果
第４学年	目標値に対する達成率は約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。前年の４年生と比べて達成率が低くなっている。		
第５学年	目標値に対する達成率は約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約１割減少した。	目標値に対する達成率は約８割５分であり、約１割５分の児童が目標を達成していない。	
第６学年	目標値に対する達成率は約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約５分減少した。	目標値に対する達成率は約８割であり、約２割の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約５分減少した。	目標値に対する達成率は約８割５分であり、約１割５分の児童が目標を達成していない。

（2）　分析（観点別）

①　中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値に対して 2.6 ポイント程度上回っている。しかし、領域別に見ると「測定」が比較的ポイントが低く、生活場面での活用や操作的活動の充実と反復練習の不足が理由であると考えられる。	・目標値に対して8.3ポイント程度上回っている。しかし、領域別に見ると「数と計算」が比較的ポイントが低く、式が表していることを説明したり、考えたことを式で表したりする経験が十分ではないことが原因として考えられる。	・目標値に対して 3.7 ポイント程度上回っている。しかし、領域別に見ると「測定」が比較的ポイントが低く、身近なものの長さを測ったり、時計を見ながら時間の感覚を身に付けたりして、日常生活の中で活用していく経験が不足していると考えられる。

②　高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値を 5 年は 7.5 ポイント、6 年は 4.5 ポイントそれぞれ上回っていて、知識・技能の定着が認められる。しかし、出題内容別に見ると「わり算」の問題が比較的ポイントが低く、筆算の仕組みの理解や計算を正確に行う経験が不十分であることが原因として考えられる。	・目標値を 5 年は 15.5 ポイント、6 年は 4.9 ポイントそれぞれ上回っている。しかし、領域別に見るとどちらの学年も「図形」の問題が比較的ポイントが低く、具体物などを使った操作的な活動や図や式、言葉の対応を考える機会が不十分であることが原因として考えられる。	・目標値を 5 年は 8.5 ポイント、6 年は 3.7 ポイントそれぞれ上回っている。しかし、領域別に見るとどちらの学年も「データの活用」の問題が比較的ポイントが低く、グラフや百分率など学習したことを日常生活の中で活用していく経験が不足していると考えられる。

3　授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基本的な計算については、タブレットドリル等を活用しながら現在の学習を維持しつつ、具体物を用いた取組を充実させたり、様々な場面で活用したりすることで、理解を促し、確実に身に付けることができるようにする。	・具体物や半具体物を使って考えたり、考えたことを図や言葉に直して表現したりすることができる場を多く設定する。	・日常生活の中から問題を設定し、長さや重さなどの比べ方や測り方などの身に付けたことを実際に活用していく場面を意図的に設定し、算数の有用性を感じることができるようにする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・式や計算の過程、基本的な計算を具体物や半具体物を用いることで、既習事項と関連付けたり、タブレットドリル等を活用して計算や測量方法の基礎基本の定着を図ったりすることで、正確に計算ができるようにする。	・式や計算の過程について、具体物や半具体物を使って考えたり、既習事項と関連付けて考えを整理したりする機会を増やすことで、他者が考えたことを理解することや分かったことを自分の言葉で表現することができるようにする。	・日常生活の中から問題を設定し、長さや重さ、広さの測定方法や時刻と時間、棒グラフなどの身に付けたことを実際に活用していく場面を意図的に設定し、算数の有用性を感じることができるようにする。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・抽象的な内容を具体的なものに置き換えて理解したり、式や計算の過程、基本的な計算を具体物や半具体物を用いることで、既習事項と関連付けて考えたりすることができるようにする。 ・タブレットドリル等を活用して計算や測量方法の基礎・基本の定着を図り、正確に計算ができるようにする。	・数学的な活動を通して図形の性質や特徴について具体的に理解したことを、式や文字を用いて抽象的に表現したり、他者が表現したものを自分の言葉で説明したりする機会を増やすことで、多角的に考えることができるようにする。	・日常生活の中から問題を設定し、広さやかさの測定方法や比べ方、グラフや割合などの身に付けたことを実際に活用していく場面を意図的に設定し、算数の有用性や活用することの楽しさを感じることができるようにする。

令和４年度　理科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・ 実物に実際に触れたり、生活経験を想起したりするなど、自然事象との出会いの場面を工夫したことで、問題を発見し、意欲的に問題解決に取り組むことができた。
・ 指導・助言の工夫をすることで生活体験や既習の学習を想起させることで、予想を立てることができる児童が増した。

（２）　課題

・ 学習を通して知った用語と生活で体験した自然事象が結び付いていないことが課題である。
・ 児童が自分から予想の根拠を表現することが課題である。
・ 物質やエネルギーに関わる学習の定着度が低いことが課題である。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

	令和４年度結果	令和３年度結果	令和２年度結果
第４学年	目標値に対する達成率は約７割であり、約３割の児童が目標を達成していない。前年の４年生に比べて達成率が低くなっている。		
第５学年	目標値に対する達成率は約６割５分であり、約３割５分の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて目標を達成した児童の割合が約１割５分減少した。	目標値に対する達成率は約８割であり、約２割の児童が目標を達成していない。	
第６学年	目標値に対する達成率は約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。昨年度と比較してほとんど変化がない。	目標値に対する達成率は約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。昨年度と比較してほとんど変化がない。	目標値に対する達成率は約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。

（2）　分析（観点別）

①　中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値に対して1.5ポイント上回っている。しかし領域別に見ると「光の性質」「電気の通り道」のポイントが比較的低かった。実験の機会と、用語を正しく理解して活用したり、反復練習をしたりする機会が少ないことによるものと考えられる。	・目標値に対して2.1ポイント上回っている。しかし領域別に見ると「光の性質」「磁石の性質」のポイントが比較的低かった。具体的な自然事象について、学習したことを用いて説明したり、原因と結果を結び付けて考えたりする機会が少ないことによるものと考えられる。	・目標値に対して0.7ポイント上回っている。しかし領域別に見ると「磁石の性質」のポイントが比較的低く、特に記述式の問題での無回答の割合が高かった。自分の考えに自信をもつことができないことによるものと考えられる。

②　高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値に対して５年生は0.1ポイント、６年生は3.1ポイント上回っている。学年間で正答率に大きな差がある。単元別にみると５年「電池のはたらき」６年「ふりこの性質」の平均正答率が低かった。実験の機会と、用語を正しく理解して活用したり、反復練習をしたりする機会が少ないことによるものと考えられる。	・目標値に対して５年生は0.3ポイント、６年生は4.1ポイント上回っている。学年間で正答率に大きな差がある。単元別にみると５年「雨水のゆくえ」、６年「ふりこの性質」の平均正答率が低かった。実験の結果から別の実験の予想をする機会が少ないことによるものと考えられる。	・目標値に対して５年生は0.3ポイント、６年生は4.4ポイント上回っている。学年間で正答率に大きな差がある。領域別にみると「物質・エネルギー」のポイントが低く、特に記述式の問題での無回答の割合が高かった。自分の考えに自信をもつことができないことによるものと考えられる。

３　授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・一人一人が実物を用いて実験ができるようにし、用語と具体的な事象を体験的に結び付けることができるようにする。また、タブレットのシミュレーションソフトを活用し、反復練習をさせることで、特に「物質・エネルギー」領域の知識の定着を図ることができるようにする。	・「物質・エネルギー」領域を中心に「理科ノートの達人」を確実に使用させ、説明の仕方を身に付けさせたり、生活体験や既習の学習を想起させたりすることで、学習したことを基に原因と結果を結び付けて考えることができるようにする。	・実験や観察において、自分の考えを短い文章で表現する機会を多く設けて励ましたり、「理科ノートの達人」を参照させる機会を設定したりすることで、自分の考えに自信をもつことができるようにする。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・一人一人が実物を用いて実験ができるようにし、用語と具体的な事象を体験的に結び付けることができるようにする。また、タブレットのシミュレーションソフトを活用し、反復練習をさせることで、特に、「物質・エネルギー」領域の知識の定着を図ることができるようにする。	・これまで学習したことについて表などを用いて整理したり、「理科ノートの達人」を確実に使用させ、表現の方法を身に付けさせたりすることを通して、根拠をもって実験の結果を予想し、実験方法を考えさせ、一つの実験の結果を基に他の実験の結果を予想したりすることができるようにする。	・実験や観察において、自分の考えを箇条書きや筋道だった文章で表現する機会を多く設け励ましたり、「理科ノートの達人」を基に自分なりの考えをもたせる機会をより多く設定したりすることで、自分の考えに自信をもつことができるようにする。

令和４年度　外国語科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・ 学校行事や季節行事等と関連させた内容をテーマにすることで、児童が積極的にコミュニケーションをとることができた。
・ 児童同士で話す活動を定期的に設けることで、外国語を話す力を伸ばし、学習した表現を積極的に使うことができた。
・ 発表活動後に振り返りを行うことで、次回の活動の目標を自ら考えることができた。

（２）　課題

・ 英作文を書く活動の中で技能習得の不十分さが見られるため、書く活動を多く取り入れるようにする。
・ 児童同士の話す活動の中で、適切なリアクションをしたり、質問をしたりする習慣の不十分さが見られるため、相づちを打つ、繰り返す、聞き直すなどの表現を習得することができるようにする。また、それらを使うことで、コミュニケーションが円滑になることに気付くことができるようにする。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率

	令和４年度結果
第６学年	目標値に対する達成率は、約７割５分であり、約２割５分の児童が目標を達成していない。前年の６年生と比べて５分程度減少している。

（２）分析（観点別）

①　高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 身近で簡単な話を聞き、その意味を理解することができている。 ・ 日常会話についての具体的な情報を聞き取り、その内容を理解する力に課題がある。 ・ 音声を聞いて、活字体の小文字を書く活動に慣れていない児童がいる。	・ 日常生活に関する対話を聞き、目標や場面、状況などを推測することができている。 ・ ものの場所を説明する場面などで、適切な位置を表す語を選んで文章を完成させることが難しい。	・ 例文を参考にしながら、第三者のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を用いて主体的に書くことができている。

３　授業改善のポイント（観点別）

（1）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・道案内をするに際に方向を表す表現に加え実生活に密着した建物の名前についても体験的に学習することによって、具体的な情報を聞きとり、内容を理解することができるようにする。 ・単元の中で、活字体の小文字を書く活動を多く設定する。また、単語練習をする際に、アルファベットを読む活動を取り入れることで、その文字であるか、小文字の識別ができるようにする。	・ものの場所を説明する表現は、歌やゲーム等を通して、繰り返し表現に触れ、実際に使用して、文章を書くことができるようにする。 ・相手に伝えるなどの目的をもって、慣れ親しんだ簡単な語句を用いた例の中から言葉を選んで文章を書く機会を設定する。	・活動の途中でよいやり取りをしているペアを紹介したり、表現を書かせたりすることで、更に意欲的に取り組むことができるようにする。

令和４年度　生活科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・１・２年の両学年で「みてみてひろば」や「わくわくひろば」で活動のきっかけになることを提示し、児童の生活から学習を始めることができるようにしたことで、児童一人一人が思いや願いをもってすすんで活動に取り組むことができた。

・繰り返しの活動や対象と関わる時間を十分に確保したり、交流や振り返りの場面でＩＣＴを活用したりしたことで、気付きの質を高めることができた。

（２）　課題

・様々な人と関わる機会や、友達と交流する機会を多く設定し、直観的な気付きをもつことができた。しかし、様々な人と交流することや気付きを基に考える場面を多く取り入れて、考えを広げ、認識を深めることができるようにすることが課題である。

・気付いたことをすすんで表現することができる児童と、一部ではあるが、表現することに抵抗がある児童がいた。どの児童も自分の考えをすすんで表現することができるようにすることが課題である。

２　授業改善のポイント（観点別）

低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・単元の終末などに、表現してきたことを基に振り返る機会を設定することで、表現することのよさに気付くことができるようにする。 ・授業の終わりや単元の終末に、振り返りの機会を設定する。人との関わりによる認識の深まりに気付くことができるようにする。	・様々なカードや付箋などを用意したり、紙芝居やスライド、劇など表現方法を例示したりすることで、考えたことを自分なりに表現することができるようにする。 ・友達や地域の人、ゲストティーチャーなどとの交流の際、ねらいなどを事前に打ち合わせを十分に行って授業に臨むようにしたりすることで、児童が考えを広げることができるようにする。	・様々なカードや材料等を生活科コーナーに使いやすく設置したり、使い方などを説明したりすることで、すすんで取り組むことができるようにする。 ・友達や地域の人、ゲストティーチャーなど様々な人との交流を児童の思いや願いとつなげて効果的なタイミングで行うことで、意欲的に取り組むことができるようにする。

令和４年度　音楽科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・ 表示を工夫してわかりやすくしたり、ICT を活用して範奏動画を提示したりして、個々の状況に合わせた指導をしたことで、技能を身に付けることができた。
・ 音楽の仕組みや要素などの知識を身に付けて、音楽を作ったり曲のよさを味わって聴いたりすることができた。
・ いろいろな音の響や組み合わせを試行錯誤し、音楽の要素や仕組みを生かして表現する活動を取り入れた。多くの児童が発想を工夫して音楽を作ったり表現を工夫することができた。

（２）　課題

・ 演奏技能の定着には個人差があり一部の児童は定着に努力を要している。どの児童も定着を図ることができるようにスモールステップで学習する流れを作ったり個々の状況に合わせたりした指導を一層することが課題である。
・ どのように表現したいか考えをもつことについて努力を要する児童がいる。どの児童も考えをもつことができるようにすることが課題である。
・ 一部の児童は楽器決めや音楽をつくることに抵抗を感じている。どの児童も楽しみながら取り組むことができるように工夫することが課題である。

２　授業改善のポイント（観点別）

（１）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 個人指導で、児童の状況に応じた指導を行ったり児童同士で教え合う場面を増やしたりすることで知識・技能を身に付けることができるようにする。	・ 例を示すなどして、発想を音楽づくりにつなげられるようにする。	・ ゲームの要素を取り入れるなどして、楽しみながら、音楽づくりに取り組める活動を増やす。

（２）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 児童同士で教え合う場を増したり、スモールステップで行ったりすることで知識・技能を習得することができるようにする。	・ 全体の場で考えを共有する場を設定するなどして、友達の実践を参考にして、どのように表現したいか考えをもつことができるようにする。	・ 範奏したり声掛けをしたりすることで、楽器選びなどに意欲をもつことができるようにする。

（３）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 演奏方法を示した動画を児童のタブレットに配信し、各自が繰り返し確認しながら練習できるようにすることで、知識・技能を習得することができるようにする。	・ グループ活動や意見共有の場を設定し、様々な演奏を体験することを通して自分がどのように表現したらよいかの考えをもつことができるようにする。	・ 個別に声を掛け、できていることを褒めてつまずいていることを支援し、自信をもって表現活動に取り組むことができるようにする。

令和４年度　図画工作科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・身近な材料から自分で選んで表現する題材を増やしたことにより、主体的に材料にかかわり、発想や構想を深めることにつながった。

・鑑賞の方法をＩＣＴ機器で作品の記録をとり相互鑑賞の時間に活用するなど増やしたことによって、活動や作品を通した友達同士の関わりが増え、造形的な見方・考え方に広がりが見られた。

（２）　課題

・図画工作科の学習が好きで、前向きに取り組む児童が多いが、自信をもって表現することが苦手な児童も多い。自分が発想したことや、活動の中で身に付いた技能を大切にしながら表現できるようにすることが課題である。

・絵や立体、工作に表す、造形あそび、またその中での鑑賞の活動について、興味の偏りがあり、苦手意識をもっている児童がいる。どの学習にも主体的に取り組めるようにすることが課題である。

２　授業改善のポイント（観点別）

（１）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・用具の基本的な使い方を覚えたり、身の回りの材料を児童が集めたりして、用具や材料を自分の気持ちや感覚と一体となって扱うことができるようにする。	・造形あそびの活動を十分に行い、思い付くままに試みて、楽しく発想や構想することができるようにする。 ・身の回りの材料に十分に触れたり、身近な作品を見る機会を増やしたりして、造形的な見方、考え方に気付くことができるようにする。	・児童の日常的な感覚や思いを学習内容に取り入れ、新しい試みを見守ったり、励ましたりすることで表現活動に意欲的に取り組むことができるようにする。 ・ねらいにそった活動の見取り（写真、動画）によって、励ましや価値付けを行い、自信をもつことができるようにする。

（２）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・既習事項と新たに学ぶ内容を関連付け、児童自身が身に付けた知識・技能を生かすことができるようにする。 ・材料の特徴や用具の扱いを児童の様子に合わせながら伝え、自分の気持ちや感覚とつなげて表現することができるようにする。	・失敗を恐れず、繰り返し試していく活動を設定し、自分の表したいことを見付けられるようにする。 ・アイデアスケッチや友達との交流により、テーマや目的、用途や機能などについて発想したことを絵や言葉にして表すことができるようにする。	・児童の夢や願いを学習内容に取り入れ、表現活動に意欲的に取り組むことができるようにする。 ・ねらいにそった活動の見取り（写真、動画）によって、励ましや価値付けを行い、自信をもつことができるようにする。

（３）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・材料や用具を活用して、これまでの経験や技能を総合的に生かすことができる題材を設定し、表現方法を組み合わせられるようにする。 ・手ごたえのある材料や活動を取り入れることで、手などの力強さや巧みさを生かす。	・ワークシートを活用して発想を広げたり、納得するまで表現方法を試すことができるようにしたりして、児童の表したい主題が明確になるようにする。 ・ＩＣＴ機器を活用して表現と鑑賞を関連付けて行い、自分や友達の表現のよさを十分に感じ、造形的な見方や感じ方を広げることができるようにする。	・おおまかな学習の流れを示し、児童が自分で計画をたて主体的に進められるようにする。 ・ねらいにそった活動の見取り（写真、動画）によって、励ましや価値付けを行い、自信をもって自分の生活の中の造形につなげることができるようにする。

令和４年度　家庭科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・ 実践的・体験的な活動をする際に、大型テレビに縫い方の動画を繰り返し流しておくことで、自分自身でやり方を確認したり、個別の支援が必要な児童に優先的に声を掛けたりすることができ、技術面の向上につながった。
・ 家庭との連携を図ったことで、技術面に難しさを感じていた児童も、縫い方や調理の行程を理解することができ、主体的に活動しようとする児童が増えた。

（２）　課題

・ 引き続き、ＩＣＴ機器等を効果的に活用するなどして、よりよい生活をするための知識・技能を身に付けることができるようにすることが課題である。
・ 問題解決的な学習を取り入れ、一人一人が生活の中から課題を見付けることができるようにしたり、よりよい生活をしようとする意欲や能力を伸ばせるような活動や行う場面を設定したりすることが課題である。

２　授業改善のポイント（観点別）

〇高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 既習事項を児童が繰り返し確認できるようにタブレットによる動画や資料を用意するなど、ＩＣＴ機器等を活用して、各家庭でも取り組み、学習したことを身に付けることができるようにする。 ・ 学んだ知識や身に付けた技能を各家庭や他教科の学習の中で実践できるように課題を与えるなどすることで、知識や技能の定着を図る。	・ 実践したことや考えを共有する機会を設けることで、自分に合った方法を考えることができるようにする。 ・ 自分の身近な家庭生活や学校生活を振り返る機会を題材の導入に必ず設定することで、改善すべき点や生活の中での課題を見付けることができるようにする。	・ 身に付けた知識・技能の有用性を感じられるように、家庭で実践したことを報告する機会や場面を設け、家族や周囲の人に生かす機会や認められる経験を多くもたせることで、よりよい生活をしようとする意欲をもたせるようにする。

令和４年度　体育科　授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・教師が、技や動きのポイントを理解して教材、教具、場の工夫をすることで、児童が楽しんで運動に取り組んだり、達成感を得たりする姿が見られた。

・技や動きのポイント、毎回のめあてを学習カードや掲示等で分かりやすく提示することで、児童が自己の課題とその解決に向けて、意識しながら取り組む姿が見られた。

（２）　課題

・引き続き、教師が、技や動きのポイントを理解して教材、教具、場の工夫をすることで、児童が、自己の課題に適した活動を選んだり、工夫したりできるようにする。

・ペアやグループでの対話の機会を設けることで、自己の課題解決に適した活動になっているかを再検討したり、新しい課題に気付いたりできるようにする。

２　授業改善のポイント（観点別）

（１）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・指導方法や教材を工夫し、遊びの中で身に付けさせたい動きを経験できるようにする。児童が伸び伸びやってみる時間を多く確保し、運動の楽しさに触れながら、様々な動きを身に付けられるようにする。	・楽しく運動できる場や用具を用いることで、自分に合った場や遊び方を選ぶことができるようにする。 ・友達のよい動きを見付けることができるようにするために、見合う時間を確保し、考えたことを伝える機会を設定する。	・きまりを守り、誰とでも仲よく運動に取り組めるように認めたり、励ましたりする声掛けを行う。体育指導補助員と連携して、指導を分担することで一人一人が安全に、楽しく運動に取り組むことができるようにする。

（２）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各単元での技能のポイントを明確にし、映像や模範等で示すことで、単元ごとの運動の行い方を理解できるようにする。また、スモールステップで取り組むことができるような場の工夫をし、それぞれの課題を解決できるようにする。	・児童一人一人がまずは、明確なめあてをもち、学習に取り組むことができるように学習カードを活用する。また、チームや友達同士で交流する機会を増やし、仲間とともに、自分たちの課題を解決していけるようにする。	・児童の取り組みを認める声掛けや児童一人一人の課題に合った支援の声掛けを行い、「できる」楽しさを感じることができるようにする。また、児童の実態に合わせてルールを工夫し、誰もが運動の特性を味わいながら楽しめる授業を展開し、意欲的に取り組めるようにする。

（３）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各単元での技能ポイントを明確にした資料の掲示をすることで、単元ごとの運動の行い方を理解することができるようにする。また、運動に苦手意識をもつ児童もスモールステップで取り組める場の工夫を展開し、それぞれの児童が自己の課題を解決できるようにする。	・学習カードを活用し、毎回の授業で自己の課題とその解決に向けた取り組みを考えられるようにする。また、ペアやグループの活動を増やし、友達同士で課題を話し合わせ、解決していけるようにする。	・児童一人一人の課題に合った声掛けを教師が行うと共に、児童同士が課題を協働的に解決する活動を通して、「わかる」「できる」楽しさを味わわせ、意欲的に取り組めるようにする。また、児童の実態に合わせてルールを工夫して、その運動の特性を味わいながら、意欲的に活動に取り組むことができるようにする。